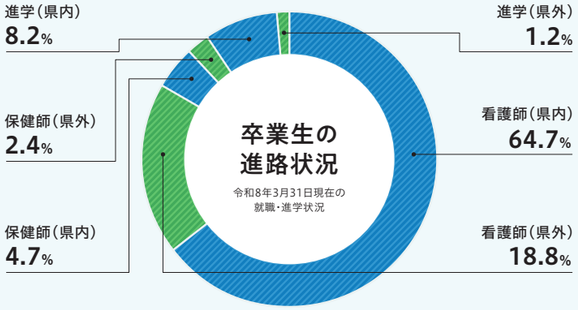
国家試験の合格状況　令和7年度看護師・保健師・助産師国家試験合格状況（看護師・保健師国家試験は第23期卒業生、助産師は第7期卒業生）

区分	卒業生・修了生	受験者数	合格者数	合格率	
				本学	全国（新卒のみ）
看護師	85名	85名	85名	100%	94.1%
保健師	85名	84名	74名	88.1%	89.9%
助産師	5名	5名	5名	100%	99.8%



県内就職内定・進学先

看護師

石川県立病院（中央病院、こころの病院）、
金沢大学附属病院、金沢医科大学病院、
国立病院機構金沢医療センター、
金沢市立病院、市立輪島病院、済生会金沢病院、
金沢赤十字病院、白山石川医療企業団、
やわたメディカルセンター、公立穴水総合病院

保健師

石川県、加賀市

進学

石川県立看護大学大学院、金沢大学養護教諭特別別科

県外就職内定・進学先

看護師

富山大学附属病院、敦賀市立病院、立川綜合病院（新潟）、
あいち小児保健医療総合センター、江南厚生病院（愛知）、
豊橋市民病院、諏訪赤十字病院（長野）、埼玉県立小児医療センター、
国立がん研究センター中央病院、東京科学大学病院、
武蔵野赤十字病院、東京医科大学病院、がん研究会 有明病院、
順天堂大学医学部附属順天堂医院、大阪市立総合医療センター

保健師

長野県、あわら市

進学

佐久大学助産学専攻科

2026年度 キャンパススケジュール

前期	夏のオープンキャンパス	7月18日（土）
	補講・試験	7月30日（木）～8月10日（月）
	夏季休業	8月11日（火）～9月30日（水）
後期	授業開始	10月1日（木）

後期	秋のオープンキャンパス	10月10日（土）
	大学祭（看大祭）	10月17日（土）
	補講・試験	2月12日（金）～2月22日（月）
	卒業式・学位授与式	3月13日（土）

石川県立看護大学グローカルはまなす基金

開学から25年が過ぎた今日、社会や家族の変化、医療経済の危機に対応した医療の再編が間近いことが聞こえてまいります。本学では今後ますます時代や地域にあった看護師・保健師・助産師を輩出する努力を重ねる所存です。そこで、学生・大学院生の国内外研修を推進する事業や、教育・研究活動において地域・社会に貢献する事業を推進することを目的に、「グローカルはまます基金」を設立しました。趣旨にご賛同いただける方からのご寄附をお待ちしております。

［ お申込み・お問合せ先 ］ 石川県立看護大学総務課　076-281-8300

詳しくは
こちらから

石川県公立大学法人
石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY
看護学部看護学科 大学院看護学研究科

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地　TEL 076-281-8300　FAX 076-281-8319
URL : https://www.ishikawa-nu.ac.jp/　E-mail : office@ishikawa-nu.ac.jp

ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C190924
VEGETABLE OIL INK
版権は石川県公立大学法人に帰属します

vol.48
JULY 2026

｜石川県立看護大学の今を伝える広報誌 キャンパスネット｜

CAMPUS NET

#学生と教員で挑む、地域活動の最前線

かほく市気屋地区で行われた花まつりに学生が参加・協力しました。

石川県立看護大学の「今」を発信！SNSをご覧ください！

公式YouTubeチャンネル
大学紹介や講義の様子、学生生活を通して、石川県立看護大学の学びの魅力を動画でわかりやすく発信しています。
ここから観れるよ

公式Instagram
大学の日常やイベント、学生の姿を通して、充実したキャンパスライフや学びの魅力をお届けしています。
ここからチェック

学生と教員で挑む、地域活動の最前線

看護の学びは、大学内だけで完結するものではありません。学生たちは地域をフィールドとし、さまざまな活動を通して学びを重ねています。今回は学生と教員で共に挑み、学ぶ地域活動の最前線を紹介します。

01 | スギヨとの防災おでん開発　フィールド実習から生まれた防災おでん「Hotでホッとな 防災おでん ～いつでも おでんたべまっし～」

岩佐 和夫 教授 | 健康科学領域

2025年度の実習では、被災者の声に触れ「災害食に“いつもの味”を」というテーマを掲げました。株式会社スギヨ様を訪問し、災害時だからこそ温かな味が心を支えるという思いを伝え、商品化が実現。学生は命名とデザインを担当し、方言を用いた「いつでも　おでん　たべまっし」が誕生しました。日常にも非常時にも寄り添う一品として、防災訓練でも好評です。

看護学部 2年生

実習では「災害時にいつもの味を」を掲げ、災害食を日常に取り入れる大切さに気づきました。スギヨ様と開発したおでんは、災害食を日常に寄り添うものへ変える一歩になっていました。防災訓練での配布時に会話が生まれたことから、食が人とをつなぐことも学べました。今後、日常と災害時の両方に寄り添う商品として広がることを期待しています。

02 | 救急ボランティアチーム　かほく市との救急活動の連携

南條 裕子 講師 | 成人看護学講座

本学の「救急ボランティアチーム」は、応急手当の普及を目指し、かほく市消防本部と連携して活動しています。メンバーは「応急手当普及員」の資格を取得し、救急の日に開催される救急フェアや学内イベントで市民の皆様へ心肺蘇生法やAEDの技術指導を行っています。今後も自身の技術を磨き、地域に救命の輪を広げる活動に邁進していきます。

看護学部 4年生

救急車同乗体験を通じ、現場での柔軟な対応力や仲間との協働の重要性を学びました。救急の知識を得る際は、個々の情報のつながりを意識して理解を深めたいと感じています。また、地域の防災訓練での心肺蘇生法の指導体験では、人に伝えることで自身の理解も深まりました。実習を通じ、主体的に学び続ける姿勢の大切さを実感しています。

03 | ふらっとマチナカ保健室　ふらっとマチナカ保健室

桶作 梢 講師 | 母性看護学講座

ふらっとマチナカ保健室は、大学生ピア・サポーターと医療従事者が協働する石川県初のユースクリニックです。10～20代の「小さな生きづらさ」の解消に向け、こころとからだの性に関する相談支援を無料で行っています。令和7年度は県内で14回のイベントを開催しました。今後も若者の不安に寄り添い、大学生だからこそできる支援の形を一緒に考えていきます。

博士前期課程 2年生

ふらっとマチナカ保健室の開設当初より活動に参加し、専門職とともに「受診を迷っている」方のお話を伺う機会がありました。そこでは、相手が安心して話せる関わりや、個別性を踏まえた支援の重要性を学びました。この経験を糧に、相談者の声に丁寧に耳を傾け、適切な支援へとつなげられる医療者を目指して、これからも成長していきたいです。

04 | ふらふら哲学カフェ　まわり道をしながら、ゆっくり考える

中嶋 優太 講師 | 人間科学領域

ふらふら哲学カフェ、カフェでおしゃべりをするような気軽さで、身近な話題について語り、考える（哲学する）イベントです。1990年代にフランスで始まり、2000年代の日本上陸後は被災地や専門職の場でも注目され、今では全国各地で行われています。私の哲学カフェでは市民の皆さんと「なりゆきまかせはいけないことか？」など、日常的な問いについてのんびり考えています。

2025年度 卒業生

ふらふら哲学カフェは、少人数で身近な疑問を語り合う場です。私は卒業研究の一環で参加していました。当初は“哲学”という言葉に身構えていましたが、多様な考え方に触れるたび、楽しさと発見がありました。対話を通じ自分の考えを見直すきっかけも得られ、他者を“知り、見て、聴く”という看護にもつながる学びを得ることができました。

05 | 白丸地区での炊き出し・茶話会　能登町白丸地区にて夏野菜カレーの炊き出しを実施

市丸 徹 准教授 | 健康科学領域

白丸は、令和6年能登半島地震で地震・津波・火事に三重被災し、今なお仮設住まいが続く地区です。地域ケア総合センターの貢献事業として令和7年9月に1年生6名、教員2名で訪問し、夏野菜カレー約60食を提供しました。配布後の茶話会では調理を終えた学生も話の輪に加わり、交流を通して地域住民の皆様に喜んでいただくことができました。

看護学部 2年生

住民の皆さんと机を囲み、会話をしながらカレーを召し上がっていただきました。多くの方から「美味しかったよ」との声や、茶話会での笑い合う時間がとても印象的で、私たちの活動が少しでも気分転換になっていたら嬉しいです。白丸の皆さんは本当に暖かい方が多く、私も活力を貰いました。これからも白丸地区との交流を大切にしていきたいです。

学部長メッセージ

学生の地域での学びが地域貢献へと広がる

学部長　川島 和代

本学は2000年の開学以来、今年で27回目の新入生を迎えました。これまで多くの学生が、県内のさまざまな地域の方々に支えられながら学んできました。特に1年次のフィールド実習では、能登から加賀までの地域で住民の方々と関わり、人々の暮らしや仕事、環境、地域の課題について学びます。こうした経験を通して、学生は自分とは異なる立場や生活を知り、相手の暮らしてこられた営みに思いを馳せ、生命とともに生活を尊重する姿勢を育むことを大切にしてきました。そして、何よりも人の痛みや苦しみを分かち合える温かな心を育んでほしいと願っています。

さらに、学生と教員は地域貢献（ボランティア活動）にも積極的に取り組み、健康支援や子育て支援、子ども食堂、不登校支援、被災地支援など幅広い活動を行っています。地域とともに積み重ねてきた学びと実践は、学生の成長を支える大切な財産となっています。この財産が次世代に受け継がれることを願っています。

2025年度卒業式・学位授与式

学部生85名が卒業、大学院生13名が修了しました。

令和7年度の卒業式・学位授与式が3月14日（土）に挙行され、看護学部生85名が卒業、大学院生13名（前期課程11名、後期課程2名）が修了しました。式典では、真田弘美学長が、地球規模で人災や自然災害が相次ぐ現状に触れ、「人は宝なり。看護はその宝を守る学問であることを、誇りとして歩んでください」と、はなむけの言葉を贈りました。卒業生代表と修了生代表は、学生生活での学び、支えてくれた友人や家族、教職員、実習施設への感謝を述べました。保護者・ご家族も参加し卒業生・修了生の晴れ姿を見届けました。

Voice 確かな知識と豊かな心を育み、次なるステージへ

成長と感謝の4年間

2025年度看護学部
卒業生

大学では看護や公衆衛生を学ぶことに加え、ボランティアを通して地域の方と交流する機会も多く、人として大きく成長することができました。また、実習で「相手のために」と考え、実践したことに対して、温かいフィードバックをいただいた際には「自分でも何か力になれた」という達成感がありました。4年間を振り返ると、感染症や災害の影響など、様々な困難もありましたが、周囲に支えられ、仲間と共に充実した時間を過ごせました。関わってくださったすべての方々に感謝し、この大学で学んだことを糧に、医療専門職として日々精進していきたいと思います。

研究者への第一歩を胸に

2025年度大学院
博士後期課程 修了生

大学院の博士後期課程において、現象に真摯に向き合い、問いを持ち続けることの重要性を学びました。レビー小体型認知症の方とそのご家族への看護というテーマに取り組む中で、当事者の思いや経験に丁寧に寄り添い、その背景を深く理解しようとする視点の大切さを改めて実感しています。これまでご指導くださった先生方、そしてご支援くださった職員の皆さまへの感謝を胸に、研究者としての第一歩を踏み出しました。今後も、石川県立看護大学の名に恥じない研究者として、よりよい看護実践の創出に貢献できるよう探究を続けてまいります。

President's Award

在学時代に顕著な活躍をした以下の皆さんに、「学長表彰」が贈られました！

Ishikawa Glocal Human Resources

本学学生が「学徒いしかわグローカル人材」に、認定されました！

令和8年3月、本学学生1名が地域課題と国際課題への理解を深める「学都いしかわグローカルチャレンジプログラム」（大学コンソーシアム石川）を修了し、グローカル人材に認定されました。本学2人目かつ県内2号の認定です。今後の活躍が期待されます。

2026年度入学式

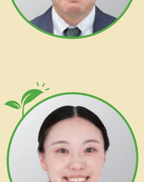
学部生85名、大学院生23名が入学しました。

令和8年4月3日（金）に、令和8年度入学式が挙行され、学部生85名、大学院生23名（前期課程14名、後期課程9名）が入学しました。暖かな春の日差しの中、桜が咲き誇るキャンパスでの入学式に、新入生・保護者・教職員が参列しました。真田弘美学長の式辞の中では、令和6年能登半島地震の経験を踏まえて本学が災害に強い大学を目指したことに触れられるとともに、DX・学際・国際性・産学連携といった特色ある教育のもと、大学生活を通して、2040年に向けて看護学に求められる力を身に付けていくことへの期待が述べられました。

今年赴任しました5名の先生方です

INTRODUCTION OF NEW FACULTY
新任教員紹介

［①出身地 ②現在の仕事内容 ③趣味］



沖田 翔平 先生
老年看護学講座・講師
① 富山県高岡市
② 老年期の看護について嚥下（えんげ）や褥瘡（じょくそう）を中心に教育や研究を行っています。
③ 映画・音楽鑑賞、温泉旅行

杉谷 菜月 先生
精神看護学講座 助手
① 石川県宝達志水町
② 精神障害があっても自分を否定せず生活できるよう、思いや背景に寄り添う視点を大切にしています。
③ お酒と旅行が好きです

立川 啓太 先生
共同研究講座ウェルビーイング看護学共同研究講座助教
① 石川県七尾市
② 以前は集中治療室で働いていました。高齢者の抱える課題に対して研究を行っています。
③ スポーツ観戦、バスケットの審判

橋本 知奈 先生
基礎看護学講座 助手
① 石川県かほく市
② 看護の基礎となる授業をサポートしています。「看護とは何か」を学生と共に考えていきたいです。
③ バレーボール、ピアノ

原 真佑子 先生
母性看護学講座・助教
① 石川県金沢市
② 妊娠・分娩・産褥に関わる母子とご家族の看護について教育・研究を行っています。
③ テレビ・映画鑑賞

附属施設IMFORMATION

附属図書館

教員による推薦図書コーナーのご案内

小林 宏光 教授 | 附属図書館館長

図書館では学内教員からの推薦図書紹介コーナーを設けています。写真は2026年3月に展示中のウエルビーイング看護学の幅先生と母性看護学の米田先生の推薦図書です。看護学に関係する図書だけでなく、小説などのエンタメ本も含め推薦者の先生が面白いと思った書籍を紹介してもらっています。

推薦図書は2～3か月ごとに入れ替え、年間10名ほどの先生から推薦があります。どの先生がどんな本を紹介しているか、是非チェックしてみて下さい。

地域ケア総合センター

地域のまんなかへ ―地域ケア総合センターの活動

塚田 久恵 教授 | 地域ケア総合センター長

当センターでは、地域の皆さまが健康で自分らしく暮らし続けられるよう、本学教員による多職種の専門性を生かしたさまざまな取り組みを行っています。相談室や健康教室、復興支援、多世代交流など、活動の場は地域のあちこちに広がり、学生と地域住民が出会い、学び合い、つながる場にもなっています。ホームページのリニューアルやSNSでの情報発信に加え、FMかほくでの健康ミニ講話など、地域にひらかれた情報発信にも力を入れています。新しい発見や出会いがきっとあります。ぜひ、一緒に活動していきましょう。

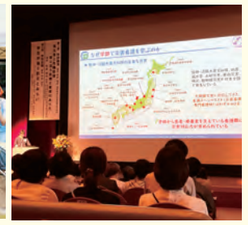
詳細はこちらから！フォローしてね！
sogocen.ipnu

看護キャリア支援センター

皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程二期生修了式

桜井 志保美 教授 | キャリア支援センター長

令和8年3月26日、皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（B課程）二期生の修了式を行い、29名が修了しました。本課程では専門的な知識・技術の習得に加え、患者およびご家族の生活の質を支える認定看護師を目指して教育を行って参りました。修了生は今後、それぞれの立場で専門性を発揮し、質の高いケアの提供だけでなく、地域における医療・看護の推進に寄与することが期待されます。式典では、ご来賓の皆様より温かい激励のお言葉を頂戴し、新たな決意を胸にそれぞれの現場へと歩み始めました。



「石川県寄附講座災害実践看護学」キックオフイベントが盛大に行われました

木田 亮平 教授 | 石川県寄附講座災害実践看護学

2025年度の開学記念日は、当講座のキックオフを兼ねた「今わたしたちができる災害看護を考える」を開催しました。学生だけでなく、地域の方々や医療機関・関係団体・企業の方々にも多数お越しいただき、厚く御礼申し上げます。第1部では、私から「災害に強い次世代看護職の育成」を目指す講座のミッションや方針を説明しました。第2部は金沢医科大学の秋冨慎司先生による「寄り添う災害看護」の講演、第3部は学生による防災と未来を語る対話企画を実施しました。

そのほか、炊き出し体験や模擬避難所、企業展示も行われ、災害看護を身近に学ぶ機会となりました。これからも本学は能登復興と石川県の災害看護の発展に貢献してまいります。

初年次教育学会第18回大会開催報告

垣花 渉 教授 | 人間科学領域

初年次教育学会第18回大会を、2025年9月4～5日に本学で開催しました。教職員と学生の協働のもと、約2年をかけて準備を進めてまいりました。その結果、全国から224名をお迎えすることができ、シンポジウム2件、ラウンドテーブル1件、ワークショップ7件、自由研究発表28件、大会校企画イベント3件（高校生の探究学習成果報告・協同行為を促す授業づくり・看護DX体験）を開催いたしました。いずれの取り組みも、日頃の教育実践や研究活動の成果を踏まえたものであり、大変意義深い内容でした。事前の準備から当日の運営に至るまで、本学の教員と学生に多大な支援をいただき、本学の学生においては、参加者の皆様からお褒めの言葉をたくさん頂戴し、大変誇らしく思うとともに、本学の財産がまた一つ作られたことに喜びを感じました。

第26回看大祭を終えて

第26回石川県立看護大学 大学祭実行委員長

2025年10月18日に開催した第26回石川県立看護大学大学祭（看大祭）は、「県看笑顔星散計画～すべての人に幸せを～」をスローガンとし、多くの新企画に挑戦しました。大学祭実行委員が毎週ミーティングを行い、ステージ企画や模擬店など半年以上の準備期間をかけて迎えた看大祭は、1276名と過去最多の方に来場いただき、大盛況で終えることができました。来場いただいた皆様、出店や出演をいただいた皆様、ご協力いただいた教職員や学生の皆様、誠にありがとうございました。なお、今年の看大祭は2026年10月17日に開催します。今後も楽しさ満載の看大祭で皆様をお迎えしますので、ぜひお越しください！

最新情報はこちらから
@IPNUFESTIVAL

インドネシア研修での活動と学び

看護学部 4年生

インドネシア研修では現地の看護大学の学生と交流し、教育体制や授業内容、実習の進め方など日本との違いを学びました。また、日本の看護教育や医療制度などのプレゼンテーションを行い、質疑応答を通して相互理解を深める貴重な機会を得られました。クリニックや病院では入院患者や外来患者への処置を見学し、患者の状態を的確に観察し、専門的なケアを実践する看護師の姿を学びました。さらに、インドネシアの歴史や宗教について学び、断食後の食事（イフタール）に参加するなど現地の文化に触れる中で、多様な文化や背景を持つ人への理解を深めることができました。この研修を通して、相手の価値観や背景を尊重しながら関わることの重要性を改めて実感しました。

RESEARCH INTRODUCTION

本学の教員の研究について詳しくは「研究シーズ集」をご確認ください。

RESEARCH TOPIC：虐待のない未来へ

未来の親と今の親を支える子ども虐待予防研究

子ども虐待は未然に防ぐことができる問題です。その鍵は、親になる前と子育て期の支援です。私たちは、親になる前の若者から子育て中の親までを対象に、虐待を未然に防ぐ支援の開発と評価に取り組んでいます。これまで、高校生や大学生が乳幼児やその親と交流しながら「親になること」を学ぶプログラムを自治体や子育て支援団体、教育機関と連携して開発してきました。このプログラムを通して、子どもへの理解や親になることへの意識の向上、さらには自己肯定感が高まることがわかっています。また、子どもと関わる経験が少ない現代社会で、若者が子育てを具体的にイメージできる機会の重要性も示されています。さらに、共同養育（親が協力して子育てすること）はこれまでも重要とされてきましたが、近年の法改正や社会の変化を背景に、父親の子育てを支える研究にも取り組んでいます。子ども虐待の予防には問題が生じてからの対応ではなく、早期からの予防的な関わりが不可欠です。すべての子どもが安心して健やかに育つ社会の実現に向け、科学的根拠に基づく支援の確立を目指しています。

わたしのイチオシ

動物の行動観察！何を考えてあの行動をしているのか興味津々です。その感覚は子どもの行動から気持ちを想像することに似ているかも。今は「ねこ」と「かもめ」を観察中。

小児看護学講座 准教授

千原 裕香

専門分野：小児看護学
家族看護学

石川県金沢市出身。石川県立看護大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程修了（看護学博士）。金沢大学附属病院勤務ののち、石川県立看護大学小児看護学助手・助教・講師を経て、2025年度より現職。

RESEARCH TOPIC：採血なしで健康を守る未来へ

スキンブロッティングによる健康モニタリングシステムの開発

少子高齢化に加えて、能登地域をはじめとした過疎地域では、医療体制の偏りや一人暮らしの高齢者が多く、従来の医療では限界がくる未来が予想されています。医療の効率化は当然として、自分の健康を把握して、できるだけ健康寿命を長くすることが求められます。私は、所属する共同研究講座看護理工学において、特殊なパッチを貼るだけで、採血することなく体内の成分を回収できる「スキンブロッティング」という技術を応用して、高齢者の健康を護る研究に取り組んでいます。

たとえば、自覚症状が乏しいにもかかわらず放置すると認知機能や身体機能の低下につながる慢性脱水をセルフで検査できるシステムの開発や、パッチから血液検査と同様な情報を得るための方法を開発しています。

これらの研究を通して、自宅にいながらパッチ1枚で健康状態を把握でき、さらにはAIによって将来の健康状態の低下まで予測できるような未来を創り、健康寿命の延伸に応えたいと考えています。

わたしのイチオシ

ハムスターを飼っていましたが、残念ながら今はいません…。最近、Moflin（モフリン）をお迎えしました。妻と一緒に癒やされています。

共同研究講座看護理工学・
共同研究講座教授

大貝 和裕

専門分野：看護理工学
臨床検査学

石川県輪島市出身。金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程修了、博士（保健学）。同健康増進科学センター助教、准教授を経て2023年4月より現職。臨床検査技師、初級アドミニストレータ、防災士。